

## 小学校の存続を願い、 農の交流で元気な地域づくり

「さぶみ牧童探検隊」応援団は、左<sup>さぶみ</sup>鏡小学校の全校児童と近隣小学校の子どもたちが、左鏡地域の自然と触れ合いながら、和牛の世話やその他の教育ファームを通じ、故郷の良さ、生産の喜びや苦勞、いのちの大切さを学ぶことを目的に活動している。また、児童数の減少で左鏡小学校の存続が危ぶまれるなか、小規模のデメリットを少しでもプラスへ転じたいと、この活動を“交流・仲間づくり”の場としても生かしている。

### ■園児からおじいちゃんおばあちゃんまでみんなで

取組みには多くのスタッフが必要になる。子どもを中心に地域を元気にする活動を行なう「左鏡の将来を考える会」（保護者など約30名）のメンバーが裏方を務めており、活動内容に応じて、おじいちゃん・おばあちゃん・保育園の保育士さんが、講師や手伝いとして参加している。このように、地元の住人の共感を得ることができ、ボランティアによる支援体制が整っている。

「さぶみ牧童探検隊」応援団が大事にしているキーワード、それは“環”。子どもたちに、体験を通じて「五つの環」を自ら感じ取り、左鏡の自然、今まで受け継いできたもの、この故郷（＝自分たちの根っこ）をきちんと理解し成長していつもらいたいという思いが込められている。

### ■教育ファームで子どもたちに伝えたい“五つの環”

【生産の環】土づくり・苗植え・草取り・収穫・調理……食べものは多くの過程があってやっと自分の口に入る。実に多くの手と工程によって食卓に届く。

【食の環】いわゆる食物連鎖。ここでは、子牛に子どもたち一人ひとりが名前を付けて育てる。その牛が牧場を出ていったあと肉になるまでの足取りがHP上でわかるようになっている。食べるということはいのちをいただくこと。

【伝承の環】おじいちゃん、おばあちゃんから教わることも多い。技や知恵、お話を子どもたちとその親へ伝えていく。

【繰り返す環】牛の世話、野菜づくり、昼食づくり。毎月のプログラムに必ず組み込まれているこれらを日常的なものとしてとらえることで、生きる力を養っていく。

【人の環】活動に関わる人の年齢には大きな幅がある。赤ちゃん・保育園児・小学生・中高生・若者・親・祖父母世代。こうした異年齢の縦の関係のなかで、子どもたちは社会性や思いやり、協調性を学んでいく。

子どもたちには牛の出産の立ち合いをさせる。当初、出産の大変さを目の当たりにした女の子が「男に生まれればよかった」と言っていたが、何度か立ち会ううちに、一つ年下の友だちに、「私たちが将来赤ちゃんを産まんといけん。頑張ろうね」と言った。

これからも「楽しそうにしていれば仲間が増える」をモットーに、スタッフや大人たちも楽しみながら活動をつづけ、子どもたちを大切に見守っていききたい。